

平成24年度学校評価書

学校名	兵庫教育大学附属小学校
-----	-------------

1 学校教育目標

<p>人間として生きぬく力を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねばり強く問いつづけ、よりよいものを創り出す子 ・はげまし、支え合い、共に伸びる子 ・強い心とたくましい体をつくる子
--

2 自己評価結果（達成状況）【A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない】

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
教育活動	確かな学力を形成するための取組 ・教育課程の改善や学習指導方法の工夫などにより確かな学力の形成をはかる。	「『自己を形づくる』学校の構築(4年次)」のテーマのもと、年間を通して、前期授業研究会、後期授業研究会、そして研究発表会と、教師は力量を高めながら児童の学力形成に尽力した。さらに今年度からは、従前より力を入れている表現力の育成に加え、基礎的基本的な学力つまり知識理解、技能など数値化して目に見える力の充実も図っている。	A	
	豊かな心を育むための取組 ・全校縦割りの集団活動や道徳教育などを通して豊かな心を育むことをめざす。	行事や異学年交流を通して、豊かな心を育むことができた。道徳を学校教育・教科の要として、道徳教材の開発や授業に力を入れた。さらに、学校生活の基礎となる生活習慣の見直しを図り、清掃活動の充実、廊下、トイレのスリッパなどの整理整頓なども徹底するよう働きかけた。	A	
	健康な体を培うための取組 ・様々な体験的な活動などを通して健康な体を培うことをめざす。	体育の価値や学習の特性に応じたバランスの良い授業展開に取り組めた。林間、臨海、耐寒訓練マラソン大会等で体力と共に強い意志力を育んだ。食生活と家庭での生活習慣を適正に保つために、保健だより、給食だよりによる啓発活動、アンケート等の調査活動にも取り組んだ。	A	
学校運営	組織運営 ・附属学校長がリーダーシップを発揮し、大学・学部と一体となった学校運営を行う。	校長・副校長・教務主任が常に全体を見据えた経営を心掛け、全職員共通理解のもと教育活動を展開することができた。今年度の重点的取組みとしては、行事や会議の精選を図り、効率的に仕事を進めることで職場の労働環境の改善を行った。	A	
	教育実習 ・大学の計画に基づき、実習生の資質・能力を高められるような実地教育を行う。	実習生の質は年々確実に向上している。担当教員の経験や専門性を生かしながら、小学校現場に則した指導を行った。	A	
	大学・附属中学校・附属幼稚園との連携・協力 ・附属学校運営会議のマネジメントのもと、大学・学部と一体となった附属学校園の連携を進める。	従前の附属学校園連携委員会・連携推進協議会に加え、研究発表会参加を附属幼稚園及び中学校教員に呼びかけて、交流の深化に努めた。さらに3校園で生活アンケートを実施したり、附属中学校との社会科プロジェクトを推進したりした。	B	小学校、中学校の教員間で共通理解を一層推進するためには、多忙化の解消が先決である。年間行事等も含めた教育課程の精選化を視野に入れる。
	保護者との連携協力 ・学校教育目標の達成をめざし、保護者と学校の連携を進める。	クリーン附属デー、カーニバルでは、保護者と教員が共同で作業を行い、相互の絆を深めることができた。他の諸行事に於いても、PTAと連携をとりながら進めることができていた。たとえば、今年度は文化庁主催の行事として、沖縄国際大学から琉球舞踊団を招聘し児童と合同での鑑賞及びセミナーを開催した。研究発表会では、保護者ボランティアとの連携によって、接遇面でも参加者から高い評価を得ることができた。今年度は特に保護者が非常に協力的で、応援の再募集が不要であった。	A	

3 分野・領域ごとの学校関係者評価

	<p style="text-align: center;">学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価</p> <p>適正に評価されています。</p> <p>児童の学力向上、豊かな心の育成、健康な身体を培う取組がよく行われています。</p> <p>生活習慣の充実や学力向上について、PTA 総会、学級懇談会で保護者への説明が行われており、情報発信に努められています。</p> <p>特別支援学級が設置できないことについては、既にご説明いただいているところですが、特別支援が必要な子どもと通常学級の子どもがふれあいながら学ぶことが自然な姿であると思われるので、インクルーシブな環境設定等について検討をお願いします。</p> <p>また、「いじめ」についても保護者の関心は高いので、機会を捉えて学校の取り組みを発信していただきたいと思ひます。</p>
	<p>適正に評価されています。</p> <p>学校長のリーダーシップのもと、労働環境の改善、教員の多忙化の解消に取り組まれるとともに、教育実習では多くの学生を受入れ、指導に努められており、附属学校としての役割を果たされています。</p> <p>大学、附属中学校、附属幼稚園との連携協力については、今年度の取り組みに加えて今後の進展に期待します。</p> <p>また、保護者との連携協力も良好に行われており、学校運営によく取り組まれています。</p> <p>なお、教育実習生を教育するという観点から、実習期間中に限らず保護者とかかわることができれば、大人との付き合い方を学ぶ良い機会になると思ひます。おやじの会等のボランティア活動での関わりを進めるのも方法だと思ひます。</p>

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
研究活動	大学との研究協力 ・大学教員と附属学校教員が研究テーマを共有し、大学・学部内の人的・物的資源の効率的活用を図る。	各教科等において共同研究という形で年々積極的に進められようになってきた。研究発表会では、助言者として大学教員に指導を請うことができた。さらに、本学留学生を積極的に授業参観、交流等に受け入れることができた。 例：韓国（キョンジン教育大学校，テグ教育大学校），インドネシア，ベトナム，アメリカ（ウイスコンシン州立大学）	A	
	大学との連携体制 ・大学・学部の教員が研究実践の一環として附属学校で授業を担当する。また、附属学校教員が大学・学部の授業を担当する。	大学授業(リフレクション及び学部授業)を附属学校教員が担当した(国語2名，社会科3名，理科3名，美術1名，初等生活1名，体育1名)。また，2名の大学教員が本校の授業(道徳，国語，特別活動)を担当した。	B	授業の配当が急に決まることがあるので，大学，附属小学校で相互に年間計画を調整しあう等して，見通しをもって割り当てを行う。
	全国規模の研究協議会の開催等による地域を越えた普及・啓発 ・附属学校の研究成果について，地域を越えた全国規模の普及・啓発を図る。	研究発表会は本年度も1日のみの開催であったが，国内では北海道から鹿児島県まで，また，外国からは韓国，マレーシアからも参加があり，総勢750名を超える参観者を得ることができた。当日は，授業参観，研究協議や出版物を通して，本校の研究成果を広めることができた。さらに，日本体育大学陸上部強化委員長の渡辺公二先生を迎え講演会を行った。スポーツにも学校の学習にも共通する指導のポイントに，参加者は熱心に耳を傾けていた。 そのほか，地域への本校教育の還元活動として，附小交流会を実施している。今年度は，国語，社会，算数他全7教科で授業公開，研究協議会，実技研修，情報交換会を実施し，地域の学校の研究活動に貢献している。	A	
	研究開発学校制度等への応募 ・文部科学省等による研究開発指定などを積極的に活用するために，今年度についても積極的な応募を行う。	附属幼稚園・中学校と協力して研究協議を重ねたことに大きな意義があった。	B	残念ながら不採択になったが，継続的に応募をしていく。
安全管理等	防災教育 ・実践的な態度や能力を育てる防災教育の推進を行う。	担当教員を中心に計画的に防災訓練を実施し，児童の実践的防災能力を高めた。 1学期：幼稚園との合同訓練による不審者対応，2学期：火災，3学期：地震	A	
	健康・安全教育 ・生命を尊重する健康教育と安全教育の推進を行う。	全学年を通して学級活動の場で指導したほか，2年生の生活科の生命を尊重する取組，6年生のネットワーク憲章等をフェスティバルで発表した。	A	
	施設設備 ・児童の学校生活の場にふさわしい施設設備を整える。	遊具及び教室の施設・備品について，定期的に安全点検を行い，適宜補習や危険回避措置を講じた。改修計画を立て具体的な整備を推進している。鉄棒下の安全マットを設置した。	A	
	安全管理 ・児童にとって安全・安心な環境を整える。	早朝及び放課後の校内巡回点検を期間を決めて毎日行った。公共の乗り物の使用マナーについても，電車，バスに児童と一緒に乗車したり，駅の構内へ直接出向いたりしながら指導を継続した。	A	

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
適正に評価されています。 大学教員と連携し，研究活動を活発に行われています。連携体制については改善に努められるとともに，研究開発学校制度等への応募について継続して取り組まれることを期待します。
適正に評価されています。 防災訓練や健康・安全教育によく取り組まれています。また，施設設備の整備にも努められています。今後，災害時に自宅に帰れない場合などの対応策の検討や，地域との防災訓練についても検討されることを期待します。